

吉田一将先生のご退任によせて

杉 田 武 志*

本学経済学部の吉田一将先生が平成23年3月をもってご退任されました。先生の長年におけるご功績に対し敬意を表しまして、感謝を申し上げます。

先生は、昭和47年神戸大学経営学部第二課程をご卒業後、神戸大学大学院経営学研究科に進学されました。昭和54年に同大学院経営学研究科博士後期課程を経られ、同年4月より福山大学経済学部講師として着任されました。その後、昭和59年4月に同大学経済学部助教授、昭和61年4月に、広島経済大学経済学部助教授としてご着任され、平成2年4月本学経済学部教授にご就任されました。このように、先生は、大学において30年以上もの間、研究、教育に携わってこられました。

先生のご専門は、会計学の中でも「原価計算論」になります。とりわけ、アメリカ原価計算基準審議会（Cost Accounting Standard Board）によって作成、公表される原価計算基準を取り上げられております。特に、アメリカ合衆国の連邦調達政策室法に関連して設置された機関であるCASBが公表した、政府契約のための原価計算基準に関して論文をいくつもお執筆されております。

ご自身の研究成果を蓄積されるとともに、専門領域を代表して学術雑誌『会計』（森山書店）に共同で、専門用語などの解説を複数号にわたり連載もされてきました。さらに、数多くの国内の会計学者が集まって、会計学辞典や簿記テキストなどを執筆するという活動にもいくたび

もご参加されております。とりわけ、会計学の領域において、国内を代表する『会計学辞典』（神戸大学会計学研究室編：同文館出版）においても、原価計算に関する項目をご担当され、先生の研究成果に基づき詳細な説明をされてきました。

教育の面では、学部専門科目として、「原価計算論」「原価計算論基礎」を中心に「簿記原理」「簿記演習」など会計学関連科目を担当されてこられました。授業では、長年の経験を生かされ、簿記が不得手の学生にも熱心に指導されていたお姿を拝見いたしました。

学内業務でもときおり、先生とご一緒させていただくことがあり、大変お世話になったこともありました。適宜、経験の浅い私にご助言をしていただくこともあり、その後の職務に活かすことができております。

ちなみに私が本学に着任したのが平成20年4月ですので、先生とご一緒できたのは、3年間という短い期間ではありました。初めてお目にかかった際に、先生のお人柄は物静かな印象を受けました。所属する経営学科会の懇親会などで、いつも楽しくお話しいただいたことを思い出します。

先生の学生の頃のお話を拝聴いたしますと、現在の会計学界を支えてこられた多くの著名な先生方の講義を受講されたお話もお伺いすることができ、とても印象深く残っております。というのも、先生は、私にとっては、経営学科の大先輩であるとともに、神戸大学の六甲台キャンパスで学んだ大先輩でもあるからです。しかも、私の大学院時代の指導教官と吉田先生は、

* 広島経済大学経済学部准教授

大学院で同期にあたる関係ということもあり、研究、教育の面でもいろいろとご教示いただくこともありました。先生から学ぶべき点は多く、教育、研究面でもしっかりと着実に進めていくことの重要性を教わってきたような気がいたします。

吉田先生が本学から去られたことは経営学科としても非常に寂しいことではありますが、定年を迎えられた今は、時間に追われることなく、ご健康でご活躍されることをお祈りいたします。吉田先生、長い間大変お疲れ様でした。